

平成30年度ふれあいトーク議事録(神代地区)

日時 平成30年10月2日(火) 19:00～20:35
 場所 堀田公民館
 出席者 神代地区住民 31名
 市長、企画政策部長、総務部長、市民部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、消防長、
 防災危機管理監、事務局5名

No.	質問の内容	回答
1	<p>大浦地区 男性</p> <p>昨年7月1日の豪雨災害について、市長、市議会議員に浸水の被害状況を視察していただき、対策について富山県氷見土木事務所に要望を伝えていただいた。その結果今年3月までに石坊川と堀田川の合流地点から下流部分の浚渫工事を行っていただき、今年7月には堀田川の合流地点から上流部分についても同様の要望を行ったところ、右岸の一部ではあるがすぐに浚渫工事を行っていただけた。</p> <p>これまで毎年大雨の際には被害があったが、工事のお陰で、今年8月、9月の大雨の際は、家屋の浸水を免れることができた。感謝申し上げます。</p> <p>ただ堀田川の上流部分については工事部分が一部に留まっていることから、引き続き工事を行っていただきたい。</p> <p>富山県氷見土木事務所からは、川の範囲が広く予算の確保が大変で、一度ですべての範囲を工事することは難しいと聞いた。少しでも費用を削減する案として、大浦営農組合が、土地改良後の田んぼに毎年70～100万円近くの費用を掛けて泥を入れている。浚渫工事で発生した泥を、そちらに運んでいただければ費用の削減になると思うので、検討していただきたい。</p>	<p>建設部長</p> <p>お話のとおり、昨年7月1日の豪雨災害による浸水後、氷見市から富山県氷見土木事務所に浚渫工事を要望し、浚渫工事を実施した。その結果、堀田川の断面が広がり、水位の上昇を抑え、石坊川の水がスムーズに流れた。このことが今年8月の豪雨の際に、浸水被害が起きなかった要因の1つだと思う。</p> <p>富山県氷見土木事務所には、常日頃、氷見市から要望を行っており、その中で富山県氷見土木事務所からは、毎年継続して浚渫工事を実施していきたいと聞いている。今後も浸水被害が起きないように頑張っていきたい。</p> <p>氷見市としては今年度、緊急浸水対策事業を予算化した。その中で、浸水被害の原因を調査し、長期的、中期的、短期的にどのような浸水対策が有効か検討していきたい。</p>
2	<p>同 男性</p> <p>大浦の地籍調査について、調査は終了したが登記が終了していない。早く登記が終了するよう市から法務局に要望してもらいたい。</p>	<p>産業振興部長</p> <p>昨年まで地籍調査に御協力いただき感謝申し上げます。地籍調査に関しては調査完了後、公表、閲覧期間が必要なため現在その期間中である。</p> <p>また土地に関係する方々の同意も必要であり、現在同意をいただくため鋭意努力中である。皆様の御協力をお願いしたい。</p>
3	<p>大浦地区 男性</p> <p>先日広報ひみ10月号を読んでいて疑問と不安を感じた。「人口と世帯数」の記事を見たところ、9月1日現在、総人口47,867人、前月比-37人と人口が減少している。反対に世帯数は前月比+26世帯と増加している。人口動態を見ると出生19人、死亡55人と自然増減については減少、転入68人、転出69名と社会増減については、ほぼ同数である。</p> <p>これらのことから推測するに、世帯数の増加については、氷見市内において山間部の若い世帯が別居し、市街地に移住し核家族が進んでいるのではないかと思う。</p> <p>また氷見市では、いろいろな子育て支援策を実施しているが、総人口において自然増減が減少しているということは少子化が進んでいるのではないか。</p> <p>総人口の減少と世帯数の増加について説明していただきたい。</p>	<p>企画政策部長</p> <p>細かな分析は行っていないが、ご指摘のように、総人口が減少し、世帯数が増加しているということは核家族が進んでいることの現れであると思う。市としては核家族化対策として三世代同居・近居世帯が、暮らしていくための住宅を整備する際に、助成する制度を設けている。</p> <p>人口減少は全国的な流れであり、氷見市においては、子供を出産する若い女性が減っており少子化が進む中、急に人口が増加することは難しい。今後は人口の減少を食い止めるということが重要となってくる。氷見市では、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、基本目標「安定した雇用」「新しい人の流れ」「結婚・出産・子育ての希望を叶える」の3つに加え4つ目として「人口が減少しても幸せに暮らせるまちづくり」を進めているが、なかなか効果がでていないのが現状である。</p> <p>これからは、子育て政策に力点を置き、子育て世代に氷見市で子育てをしたいと思われるよう、全小中学校の冷房完備、ICT・英語教育、保育料の無料化など、現在実施している、子育て世帯にやさしい政策を推し進め、移住を促していきたいと考えている。</p>

	質問の内容	回答
4	<p>同 男性 現在、氷見市は財源に余裕があるように見える。今後、財源として人口に比例しない地方交付税などについては減少しないと思うが、市税については人口減少に伴い減少すると思う。その際に市民への税負担がどのように変わっていくのか、聞かせていただきたい。</p>	<p>総務部長 氷見市の行政を運営していく上で、一番大きな財源は氷見市の皆様から頂く税金である。住民税、固定資産税、法人税が中心になるが、それだけでは氷見市が標準的な行政を運営していくことは困難である。そのため国が各自治体の財政状況に応じて地方交付税を交付している。しかし人口が減少すれば行政の運営に必要な経費も減少するため、将来的に地方交付税も減少することが予想される。 そのため、氷見市では各公共施設を再編したり、将来的には行政サービスの圧縮などを行い、市民の方の税負担が現在と変わらないようにしていく必要があると考えている。</p>
5	<p>男性 学校教育について、小学生が朝あいさつをしていない。あいさつは教育の基本だと思う。氷見市の将来を背負って立つ子供達に是非教えていただきたい。 子供の安全確保をしていただきたい。今年6月大阪で地震があった際、小学生が学校のプールの塀の下敷きになった事故もあった。氷見市は大丈夫か？氷見市のスクールバスを見ると外観がかなり痛んでいる。通学等の安全確保をしっかりとしてもらいたい。</p>	<p>教育次長 あいさつについては、小学校に確認しあいさつをするよう徹底させたい。 塀の問題については、お話の事故を受け、市内の小中学校で点検を行った。速川小学校で一部危険箇所があったため、すぐに工事を実施している。また通学路についても、9月末まで保護者の方と子供たちが一緒に、危険箇所の確認を行う活動を行っていた。現在その結果がまとまってきたところである。危険箇所の工事・撤去には、費用がかかるため、その助成等も含め検討していきたいと考えている。 スクールバスについては確認させていただく。教育委員会には、小さな事故を含め報告が上がってくる。その都度対処しているが、修理されていないということであれば適切に対処させていただく。なおスクールバスの運転手を対象に安全運転講習会を開催しているが、今回のお話を受けてさらに安全運転を徹底していきたい。</p>
6	<p>男性 防災行政無線の正午のチャイムは、なぜあの曲になったのか。現在の曲は違和感がある。変更した理由を教えてください。</p>	<p>防災危機管理監 防災行政無線の正午と5時のチャイムについては、いろいろな議論があった中で、氷見に縁のある曲にということで協議の上、現在の曲に決定した。 ただ変更後も、いろいろなお意見をいただいている。今後については、頂いたご意見を踏まえながら検討していきたい。</p>
7	<p>同 男性 大浦の工業団地の取り組みは良いことだと思うが、現在鋳物工場の臭いが自宅まで届く。まるで工場の中のように感じる。既存の工場については仕方ない部分もあるが、新たな工場については臭気対策をお願いしたい。 測定の義務がある煤塵やダイオキシンと違い、臭気については定義が難しいと思う。だが生産活動から発生する臭いは公害であるという定義があるはずである。</p>	<p>産業振興部長 大浦の工業団地については、今後様々な設備投資がされると思われる。それに伴い、臭気に限らず騒音、交通安全に関しては企業側にしっかりと話をさせていただきたいと考えている。</p>

	質問の内容	回答
8	<p>同 男性 氷見市の水道料は富山市の3倍、高岡市の2倍である。水道料を下げる取り組みはできないのか？ ※実際には富山市の2.02倍 高岡市の1.36倍 県平均の1.54倍(一般家庭 口径13mm 1ヶ月20立方メートルの場合 29年4月1日現在)</p>	<p>建設部長 お話のとおり、氷見市の水道料が、他市に比べ高いというのが現状である。 もともと氷見市は水源がなく子撫川から水を引いている。その際、子撫川を管理する県に支払う料金については、当初より基本水量というものを設定し決定していた。しかし現在人口減少が進む中、当初設定していた基本水量に比べ使用水量が減っている。使用水量に応じた料金設定を県の方に要望していくことを検討していきたい。</p>
9		<p>市長 水道料金について氷見市は県下で一番高いということになっている。理由としては、自己水源がない氷見市は、県の企業局が運営している子撫川ダム、県西部水道用水供給事業から水を買っており、決められた単価を支払うしかないのが現状である。 少しでも水道料を下げる取り組みとして、昨年度から県と協議し人口減少で使用水量が減っていることから、今年度より県から買っている一日あたりの水量を17,875㎡から16,803㎡に減らしてもらった。そのため本来であれば氷見市の水道料金を少し下げることができた。しかし今年の冬、山間部で発生した老朽化した水道管の破裂による断水があったように、市内の老朽化した水道管の改修が必要となっている。そのため今回は水道料金を据え置かせてもらった。 今後も水道料金を下げるため、県とは協議を続けていく。しかし子撫川ダムを作った際の何百億という建設費用が、毎年減価償却費として発生し、それが水道料金に反映している背景を考えると、県と氷見市という関係だけでは水道料金を下げることは難しいと思う。 例えば高岡市、射水市、小矢部市などと一緒に広域的に水道事業を行うなど、画期的なことを行わなければ水道料金を下げることはできないのではないかと考えている。 今後人口減少が進む中で、水道事業に関わる固定費が現在のままだと、1人あたりの水道料金が段々上がることが予想される。現状の水道供給を維持しながら、どうやって水道料金を下げていくか、他市の市長達とも少しずつ話し合いを始めたところである。水道料金が高いことについては、課題として認識している。時間がかかると思うが頑張っていきたい。</p>
10	<p>大浦地区 男性 昨年度9月補正予算における大浦地内の市道糸島2号線の舗装新設事業について、市長の記者会見資料の中に予算書が載っていた。 その中で歳入の部分に道路舗装事業寄付金という項目があった。これは地方自治法224条の分担金にあたるのではないかと。何故分担金とせず寄付金としたのか、お答えいただきたい。</p>	<p>総務部長 最近まで市道の舗装事業は、中止ということで実施をしていなかった。しかし市長になってからは、地元の要望が高いものについては、地元で事業費の一部を負担してもらい実施している。 お話のように負担していただく金額の上限を条例で定め、分担金として処理する方法もある。しかし条例で定めるとなると、今後の市全体の事業を見越した上で分担金の上限を考慮する必要がある。そのため今回の舗装事業については、地元の方と協議し、地元に対し大きな負担とならないように、寄付金として限定的な処理をさせていただいた。ご理解いただきたい。</p>

	質問の内容	回答
11	<p>堀田地区 男性</p> <p>イノシシ関連について、イノシシが農道を掘っていき、崩壊している箇所がたくさんある。地区でその箇所を修繕したい場合、補助があるのかお聞きしたい。数メートル程度の被害であれば地区で対応できるが、長距離にわたって被害があり、地区だけで修繕するのは難しい。農道には掘り起こし対策として、撒石を行ったが効果がない。</p>	<p>建設部長</p> <p>イノシシが市道や農道の法面を崩し、その泥が側溝に溢れ水が流れない場合、ふるさと整備課では、泥を撤去するための機械の貸出や、地区の方で泥を捨てる場所を紹介していただければ、排出作業も行っている。ご連絡いただきたい。</p> <p>それ以外には機械の借上げ料などに対応できる水路整備地域支援事業といったものを活用していただくことが考えられる。</p>
12		<p>地域振興課長</p> <p>地域振興課では地域活力施設等整備支援事業という事業があり、いまほどお話のあった道路や河川等の被害の復旧に対応できる場合がある。ただし地域で費用の半額を負担していただき、上限は50万円である。</p> <p>すべての道路や河川等に対応できるわけではないので、被害箇所や状況等、詳しい内容を聞かせていただきたい。</p>
13	<p>大浦地区 男性</p> <p>氷見市では市内21地区で地域づくり協議会を立ち上げようとしており、現在6地区が立ち上がり、プラス何地区かが立ち上がる予定だと聞いている。今は自治会単位での活動が基本となっているが、今後、自治会と地域づくり協議会は、どういった位置づけになっていくのか教えて欲しい。</p> <p>大浦地区では公民館が老朽化し建て替える話が出ている。現在の公民館の建設費用は約3,000万円、建て替えとなると倍近い費用がかかるかもしれない。地域づくり協議会が立ち上がる中、そもそも大浦地区の公民館が必要かどうかという議論も出てくる。</p>	<p>企画政策部長</p> <p>地域づくり協議会の現状については、現在21地区のうち6地区で設立されている。また準備会が2地区、勉強会を始めている地区が2、3地区ある。市としては第8次氷見市総合計画の期間中である平成33年度までに、市内21地区すべてにおいて地域づくり協議会を設立していただきたいと考えている。</p> <p>まずは地域づくり協議会がどういったものかということを知っていただきたい。地区の方から声をかけていただければ、職員が説明に上がり地域づくり協議会の必要性や、設立した場合のメリットなどを説明させていただく。地区の方が集まる機会に声をかけていただきたい。</p> <p>施設の整備については第8次氷見市総合計画の中で、地域の拠点の整備を項目としてあげており、将来的には地域の拠点の整備についても支援させていただくことになると考えている。</p>